

JAいがふるさと管内の小麦に対する「ネバリン」展示圃結果報告書

日本肥糧株式会社

1. 試験目的：小麦に対する生育促進及び生産性向上への効果確認
2. 試験場所：三重県伊賀市
3. 生産者名：I 様
4. JA担当者：K 様
5. 栽培概要
 - (1) 供試作物：小麦（品種：タマイズミR）
 - (2) 播種日：2022年11月6日
 - (3) 収穫日：2023年6月6日
 - (4) 資材施用：試験区のみ播種前にネバリン40kg/10a施用（11/4）。
6. 調査方法：各区の生育が揃った箇所を選び、畝幅1m分の小麦を3条分（条間35cm）連続して掘り取った。
結果は次の通り。



写真1. 生育時の圃場の様子（2023年3月15日）

○播種直後より試験区は慣行区と比べ、株が太く葉色も良く生育が旺盛である様子が伺えた。
また、生育初期にシカによる食害があったが、試験区はその後の回復が早いように見えた。



写真2. 収穫前の圃場の様子（2023年6月6日）

○試験区は慣行区よりも生育のバラつきが少なく、穂も充実している様子が伺えた。



写真3. 収穫物の様子（2023年6月7日）

表 1. 生育調査結果（各区の平均）

	草 丈 cm	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本
試験区	90.1	80.6	9.5	15.2
慣行区	85.6	76.4	9.2	11.0
指数	1.05	1.05	1.03	1.38

表 2. 収量品質調査結果

	全重 kg	粗子実重 kg	精子実重 kg	精子実水分 %	全重 kg/10a	精子実重 kg/10a	千粒重 %(Moi.12.5%)	灰分 %(Moi.12.5%)	容積重 g/l (Moi.12.5%)	蛋白質 %(Moi.12.5%)
試験区	1.18	0.42	0.41	9.83	1124	382	33.4	1.51	750.3	10.4
慣行区	0.92	0.37	0.36	9.52	876	334	33.8	1.59	765.3	10.6
指数	1.28	1.14	1.14	1.03	1.28	1.14	0.99	0.95	0.98	0.98

7. まとめ

生育調査の結果、試験区は慣行区と比較し、全体的な生育が優れ、穂数も多い結果となった（表1）。

収量品質調査においては、収量が高い結果となった（表2）。

試験区の収量が増加した要因は穂数の増加によるものと考えられる。地上部の生育が旺盛な様子や全重が重いことから、分けつが盛んだったことが伺える。

また、JA指導員からは、試験区は慣行区と比較し、発芽後の芯が太い事や葉色が濃い事が確認されており、生育初期から順調な様子が伺えた。

このことから、ネバリン施用による根の発達促進等により、生育初期から養分吸収が順調に行われ、健全な生育が行われたことによる収量の増加と品質向上に繋がったと考えられる。

以上